

津久見市における地域公共交通活性化の取組

課題

- ①船舶・バス・鉄道のアクセスが不便 ◇船舶・バス・鉄道の一体感が希薄
- ②津久見港の近くにバス停がありません
 - ◇港近辺にバス停がなく、最寄りのバス停まで荷物を抱えて徒歩移動
 - ◇島民は中央病院まで徒歩で移動しています。
 - ◇船舶とバスの接続不便で離島を訪れる人も減少
- ③離島の振興や、船舶の老朽化への対応、乗下船時の安全性と快適性の向上 等

いずれの公共交通機関も過疎化や少子化による人口減少や道路整備の拡充による自家用自動車の普及などの影響により、乗降客は毎年減少しており、行政としても高齢化社会の中、どのような仕組みをつくれれば市民や観光客が望む交通体系が確立できるのかが課題となっている。

津久見市公共交通路線図



②津久見港バス停の設置



- ◇島民の市内移動を円滑にします。
- ◇船舶発着時刻とバスの時刻の連携

解決策 平成20年3月25日に「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく「津久見市地域公共交通活性化協議会」を設立し、行政や公共交通事業者、商工会議所、住民代表などの関係者の参加により、当地域に必要な交通体系のハード事業、ソフト事業を一体的に検討し、パブリックコメントの実施やホームページ上での協議会の進捗よく状況の広報をするなど市民の協力を得ながら進めていきたい。